# 第２学年Ａ組 社会科（地理的分野）学習指導案

平成２７年１０月２７日（火）　第５校時
第２学年Ａ組教室　男子２０名　女子２０名
授　業　者　　教　諭　　関　　正　人

**１．単元名**　（２）日本の様々な地域　　ウ　日本の諸地域

**２．単元について**

①単元の目標

○中国・四国地方の自然や歴史的背景、都市の機能に注目し、人口や都市という視点を中心にして意欲的に追及しようとしている。

○人口集中によって発生した都市問題や過疎化の問題の原因を判断し、その対策をまとめている。

○中国・四国地方の自然の特色や工業・農業の分布を適切に選択した地図や統計資料から読み取り、調べた内容を図表や文章にまとめることができる。

○人口と都市、村落といった視点を中核とした考察を通して、中国・四国地方の地域的特色を的確に捉え、その知識を身に付けている。

②単元観

この単元は、学習指導要領・地理的分野・内容（２）「日本の様々な地域」を受けて構成したものである。この大項目は、世界の様々な地域の学習を踏まえ、日本及び日本の諸地域の地域的特色をとらえる学習を通して、国土の認識を深めることをねらいとしている。

特に、この中項目では日本を幾つかの地域に区分し、中核となる視点を設定しながら動態地誌的なアプローチで地域的特色を追及していく。また同時に静態地誌的な活動を取り入れ、地域の特色も網羅的に取り扱う部分もある。７つの地方の学習を終えた時に身に付けた力を、中学校最後の地理的分野の学習である身近な地域の学習につなげたい。

③生徒観

平成２６年度さいたま市中学校学習状況調査の結果をみると、文章で説明する問題の正答率が３割に満たないことが分かる。そして、無解答率も３割に上っている。このことからも授業において言語活動を充実させる必要性のあることが分かる。本校の生徒も例外ではなく、授業の中で資料が多くなると考えることをやめてしまったり、自分の考えを文章で表現することが苦手としたりする生徒もいる。授業の中で、考えを文章で表現する時間を積極的に増やして学習活動を行っていく必要がある。

**３．ICT 活用の視点**

本時では、数人の生徒で班を作り、『コラボノート（協働学習支援ソフト）』を使い一つの作品を仕上げていく。班内で役割分担し、アドバイスし合いながらパソコンの画面上にリアルタイムで更新される情報をまとめていく。他の生徒と一緒に学習することによって、より良いものを作り、なおかつ班員の考えやよさを理解しようと努める効果が期待できる。また作業のデジタル化により時間の短縮を図ることができ、写真・イラスト・グラフなどを効果的に用いることもできる。そして、出来上がった作品は PC 画面を見ながら生徒同士の相互評価を行うことができる。従来は机上に並べて教室内を歩きながら行ったり、黒板などに掲示しながら行ったりしていたが、ICT を活用することで、この時間も短縮できるようになった。このように、未来の授業を意識して ICT 実践に取り組んでいる。

## ４．単元の観点別評価規準

単元名　（2）日本の様々な地域　　ウ　日本の諸地域

| 社会的事象への<br>関心・意欲・態度 | 社会的な思考・<br>判断・表現 | 資料活用の技能 | 社会的事情についての<br>知識・理解 |
|---|---|---|---|
| 中国・四国地方の自然環境、人口、産業などを概観する中で、特に交通網の整備と都市と農村の変化を踏まえ、地域的特色を意欲的に追及しようとしている。 | 中国・四国地方の地域的特色を、人口と都市・村落といった視点を中核とした考察を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 | 中国・四国地方の地域的特色に関する地図や統計・写真などの資料を基に、図表などにまとめたりしている。 | 中国・四国地方について、人口と都市・村落といった視点を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 |

## ５．単元の指導計画（８時間扱い）

| 累計時間 | おもな学習内容と学習活動 | おもな評価の観点 |
|---|---|---|
| 1 | ○中国・四国地方の地形や気候・自然の特色を、作業を通して学習する。 | 知中国・四国地方の自然や特色を理解している |
| 2 | ○中国・四国地方の交通網の整備と産業との結び付きを、作業を通して学習する。 | 思中国・四国地方の交通網が整備されたことにより、産業が発達したことを考察する。 |
| 3 | ○中国・四国地方の人口のかたよりについて作業を通して学習する。 | 思中国・四国地方の過密と過疎の現状と解決方法を考察する。 |
| 4 | ○中国・四国地方の過疎地域の中から班員と話し合い活性化させる市町村を選択する。<br>○過疎地域を活性化するためにはどのようなプランがあるのか、事例を参考にしながら班で協力し、考える。 | 関ペア生徒と協力し、意見交換しながらより良い提案を考えている。<br>思・表地域を活性化させる具体的なプランを考え、提案している。<br>技・知統計資料を用いて、提案が説得力のあるものになるような活用をしている。 |
| ５～７<br>【本時は７時間目】 | ○中国・四国地方の過疎問題を解決する取り組みを、他の生徒と協力して、『コラボノート（協働学習支援ソフト）』を使いながらまとめていく。 | 関班の生徒と互いにアドバイスし合い意欲的に作業している。<br>表 ICT を使い情報を整理し効果的に利用しながらまとめている。<br>技各グラフの特性を理解し適切に選択しながらまとめている。 |
| 8 | ○他の班の作品を、個人用 PC を用いて相互評価する。 | 関友達の作品のよい点を評価し、自分の今後のまとめに活かそうとしている。 |

## ７．本時の学習

①本時の目標

○過疎・過密問題の解決が地域の課題になっていることを理解し、解決策を考える。

○協働学習を通して互いのよさを理解し、協力しながらより良いものを作る。

②本時の展開

| 過程 | 学習活動と内容 | ○教師の支援　□主な評価の観点 | 資料等<br>☆ICT 活用場面 |
|---|---|---|---|
| 関心を高める（５分） | １．本時の学習を確認する。 | ○時間配分を考え、すべての作品を見ることができるように注意させる。 | ワークシート<br>☆情報ボード |
| | **お互いにアドバイスをし合い、より良い作品を作ろう** | | |
| 課題に迫り、考えを深める（４０分） | ２．『コラボノート（協働学習支援ソフト）』を使い、他の班の作品にアドバイスする。<br>班の中で以下の４つの観点の担当生徒を決めておき、自分の担当の観点で他の班の作品にアドバイス用の付箋を貼り付ける。<br>【４つの観点】<br>・活性化プラン<br>・統計資料<br>・表現の工夫<br>・地図の活用 | ○良いところ、改善すべきところを具体的に指摘するよう指導する。<br>○アドバイスする際にどう改善するとより良くなるのか提案させる。<br>関他の作品を担当の観点に沿って評価している。<br>思・表他の生徒からのアドバイスを生かし、より良い作品になるよう修正している。 | ☆個人 PC<br>『コラボノート』 |
| | ３．自分の班のアドバイスを見てさらに修正を加えていく。 | ○アドバイスの内容を班でもう一度検討し、どのような修正を加えるか決定する。<br>○他の班からの観点ごとのアドバイスを受けて自分の班の作品がより良いものになっているか確認する。 | ☆個人 PC<br>『コラボノート』 |
| 特色をまとめ、整理する（５分） | ４．本時のまとめ<br>５．次回の予告<br>次回は発表会を行い、相互評価することを伝える。 | | |